

西南女学院大学の三つの方針について（2017年度入学生用）

本学では、建学の精神である「感恩奉仕」を基本とし、教育上の目的を踏まえた「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受入れに関する方針」の三つの方針を策定し、公表しています。

これは、育成すべき人材像を明確化した上で、それを実現するための適切な教育課程を編成し、体系的・組織的な教育活動を行うとともに、本学の教育を受けるにふさわしい学生を受け入れるための入学者選抜を実施することにより、その使命をよりよく果たすためです。

大学

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本学では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 健康や生活の向上および社会に関心を持ち、その発展に貢献する意欲のある人。
2. 基礎学力を備え、目的に向かって努力する人。
3. 協調性や他の人々を思いやる心を持つ人。

保健福祉学部

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

保健福祉学部の学位は、大学の教育目的及び保健福祉学部の教育目的に沿って設定した授業科目を受講し、定められた修業年限を満たし、各学科において定められた単位数を修得した者に与えられる。

また、以下のような要件を満たしたと認められる者に単位が与えられる。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 「文化と宗教」、「心身と健康」、「環境と情報」、「国際社会と現代」、「地域創生」の総合人間科学の5分野において、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識を修得している。
- 1-2) 看護学、福祉学または栄養学の専門領域における基礎的知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 看護学、福祉学または栄養学の各領域において、的確な考察及び判断ができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 保健・福祉の実践者として課題を発見し、関連領域との協同により現実に即した解決を図る意欲がある。

DP4【態度】

- 4-1) 保健・福祉の理想を見出し、専門家として自己研鑽する力をもつ。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 看護学、福祉学または栄養学における基本的かつ確実な技能と、関連領域と意見交換ができる豊かな表現力を身につけている。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本学部では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 人間の健康や生活の向上に関心を持ち、人々を支える意欲のある人。
2. 基礎学力を備え、自ら学び続ける努力をする人。
3. 地域や社会で活動できるための基本的な協調性や人を思いやる心を持つ人。

看護学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

保健福祉学部看護学科では、全学共通の教養科目である総合人間科学科目及び専門知識・技術を習得するための専門教育科目の所定の単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（看護学）の学位を授与する。

DP 1 【知識・理解】

- 1-1) 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけている。
- 1-2) 看護学分野での基礎的知識を修得している。

DP 2 【思考・判断】

- 2-1) 健康上の課題を解決するため、身体的・心理的・社会的な状態を把握し、論理的に思考・判断できる。

DP 3 【関心・意欲】

- 3-1) 社会の看護・医療ニーズの変化に対応して、自ら学び続ける意欲を持っている。

DP 4 【態度】

- 4-1) 看護専門職としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
- 4-2) 保健・医療・福祉の総合的視野から、健康支援に関わる人々と協働・連携する姿勢を身につけている。

DP 5 【技能・表現】

- 5-1) 看護の対象と適切なコミュニケーションを図り、援助的関係を形成することができる。
- 5-2) 看護の対象に必要な看護ケアを提供することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

保健福祉学部看護学科では、教育目的に基づき、卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）を実現するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成している。

1. 看護学科カリキュラムは、看護専門職育成を目的として、全学科共通科目の総合人間科学と専門教育科目「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基本」「看護実践の応用・展開」「看護実践の統合」「看護実践の充実」で構成する。
2. 総合人間科学では、「文化と宗教」「心身と健康」「環境と情報」「国際社会と現代」「地域創生」に関する科目を含み、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養を身につける。
3. 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基本」では、看護の対象である人々を総合的に理解し看護を実践するための基礎的知識・技術の修得及び態度を育成するとともに、保健・医療に関わる倫理観を養う。
4. 「看護実践の応用・展開」では、あらゆる健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に必要な看護ケアを提供する能力を育成する。
5. 「看護実践の統合」「看護実践の充実」では、段階的・系統的な学習の集大成として位置づけ、社会の看護・医療ニーズの変化に対応する力を養うとともに、保健・医療・福祉の総合的視野に立ち、関連職種と連携・協働する能力を育成する。また、生涯を通して主体的に学び続けるための

基礎的能力を養う。

6. 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状を取得できる。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本学科では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 人の生命と健康を支えるために看護の実践に取り組みたいという意欲を持ち、看護学を学ぶために必要な基礎学力がある人。
2. 人に尊敬の念を持って接することができる人。
3. 人とのコミュニケーションを大切にし、他者と協調して行動できる人。
4. 生涯にわたって学び続ける意欲のある人。

福祉学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

保健福祉学部福祉学科では、総合人間科学科目及び専門教育科目の履修により、所定の単位数を修得し、ヒューマンサービスの専門家として、以下の要件を満たす者に学士（福祉学）の学位を授与する。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える視点と知識を身につけている。
- 1-2) 対人援助に必要な基礎的知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 個人や社会の福祉的課題について、的確に把握し、支援方法を検討できる。
- 2-2) 対人援助職としての倫理的判断ができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 人びとのいのちや生活について、さらに社会の福祉的課題について関心をもつ。
- 3-2) 課題解決に向けた創造的な支援とは何かを探求しようとする意欲がある。

DP4【態度】

- 4-1) 社会の一員としての自覚を持ち、責任を持って行動できる。
- 4-2) 人びとの異なる立場や考え方を理解し、協力することができる。
- 4-3) 自らを成長させるための課題を自覚し、自己研鑽に努めている。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 他者と関わる上で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。
- 5-2) 対人援助職としての基本的な専門的スキルを身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

保健福祉学部福祉学科では、教育目的に基づき、卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）を実現するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成している。

1. 福祉学科は、福祉・心理・養護教諭コースと子ども家庭福祉コースで編成される。
2. 各コースとも社会福祉士国家試験受験資格を基本として、福祉・心理・養護教諭コースでは、同

時に精神保健福祉士国家試験受験資格、認定心理士資格、養護教諭一種免許状のいずれか1つを取得することができる。子ども家庭福祉コースでは、同時に保育士資格が取得できる。

3. 福祉学科カリキュラムは、豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、人々を身体的、心理的、社会的、人格的存在として総合的に理解するための基礎となる総合人間科学科目と、専門教育科目及び教職に関する科目で構成する。
4. 専門教育科目は、「福祉基礎科目」「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」「専門研究科目」で構成する。
5. 「福祉基礎科目」では、専門的学習の準備として基礎的な対人援助のイメージを確立し、社会福祉士、精神保健福祉士、認定心理士、養護教諭、保育士に必要な学習スキルとコミュニケーションスキルを獲得する。
6. 「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」及び教職に関する科目では、社会福祉士、精神保健福祉士、認定心理士、養護教諭、保育士として必要な専門的知識と理論及び技術の修得を目指すとともに、専門職としての態度を育成し倫理観を養う。
7. 「専門研究科目」は、学びの集大成として位置づけ、3年次、4年次と継続して開講し、自らの課題を設定し探求する姿勢を身につけるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本学科では、次のような学生の入学を期待しています。

福祉・心理・養護教諭コース

1. 人々の生について広く深く学ぶ意欲のある人。
2. 豊かな人間関係を築く努力ができる人。
3. 人々への支援を通して社会貢献をめざしている人。

子ども家庭福祉コース

1. 人々の生について広く深く学ぶ意欲のある人。
2. 豊かな人間関係を築く努力ができる人。
3. 子どもと家庭の支援を通して社会貢献をめざしている人。

栄養学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

保健福祉学部栄養学科では、総合人間科学科目及び専門教育科目の所定の単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（栄養学）の学位を授与する。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
- 1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識及び技術を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 保健、医療、福祉に深い関心を持ち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意

欲を持っている。

DP4【態度】

- 4-1) 専門職業人としての職業倫理を持っている。
- 4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身についている。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

保健福祉学部栄養学科では、教育目的に基づき、卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）を実現するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成している。

1. 総合人間科学の科目を通して、社会人としての基礎的な教養と知識を身につけるとともに、管理栄養士及び栄養士にふさわしい豊かな人間性とコミュニケーション能力を養う。
2. 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。（1年次、2年次）
3. 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨地実習」を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。（3年次）
4. 卒業研究、卒業ゼミ、演習を通して、4年間の学びの集大成を行う。また、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力を養う。（4年次）
5. 各人が関心のある科目を体系的に履修できることを目的として、総合人間科学、専門基礎分野、専門教育分野の科目の中から、卒業必修科目、栄養士必修科目、管理栄養士必修科目、及び教職に関する科目をそれぞれ設定する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本学科では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 栄養と健康の問題に強い関心を持ち、人々の健康に貢献したいと考えている人。
2. 人とのコミュニケーションが円滑にとれ、協調性のある人。
3. 栄養の面から、教育やスポーツなどの分野でも活躍したいと考えている人。

人文学部

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

人文学部の学位は、大学の教育目的及び人文学部の教育目的に沿って設定した授業科目を受講し、定められた修業年限を満たし、各学科において定められた単位数を修得した者に与えられる。

また、以下のような要件を満たしたと認められる者に単位が与えられる。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 「文化と宗教」、「心身と健康」、「環境と情報」、「国際社会と現代」、「地域創生」の総合人間科学の5分野において、将来の社会を支えるための基本的な知識を修得している。
- 1-2) 人文科学あるいは社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力を身につけている。

DP 2【思考・判断】

2-1) 人文科学あるいは社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断ができる。

DP 3【関心・意欲】

3-1) 人文科学あるいは社会科学の知識を社会における実践力へと高め、社会に貢献しようとする意欲がある。

DP 4【態度】

4-1) 文化や社会の担い手としての自覚をもち、自己研鑽して社会に貢献しようとする姿勢を有する。

DP 5【技能・表現】

5-1) 他者と協働し国内外で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけている。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本学部では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 日本の社会および国際社会に関心を持ち、将来、社会で積極的に活動しようとしている人。
2. 基礎学力を備え、向上心を持ち、目的に向かって努力する人。
3. 他の人々を思いやる心を持ち、協調性に富んでいる人。

英語学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

人文学部英語学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、基準となる単位数を修得し、以下の素養・能力を有すると認められる者に学士（人文学）の学位を授与する。

DP 1【知識・理解】

1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
1-2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。

DP 2【思考・判断】

2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。

DP 3【関心・意欲】

3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。

DP 4【態度】

4-1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。

DP 5【技能・表現】

5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
5-2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

人文学部英語学科では、教育目的に基づき、卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）を実現するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成している。

1. 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探究心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」、「演習・研究」で構成される専門教育科目を設置する。
2. 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。
3. 「専門基幹科目」には、異文化理解を深め、英語・日本（語）などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。
4. 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。
5. 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。
6. 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。
7. キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本学科では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 英語力の向上に強い関心を持ち、自主的に学習する姿勢を身につけている人。
2. 英語力を活用して他国の人々と積極的に関わり、異文化理解を深め、自国の文化を発信する意欲のある人。
3. 世界の出来事に関心があり、かつ地域社会の活性化にも貢献する意欲のある人。

観光文化学科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

人文学部観光文化学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、基準となる単位数を修得し、以下の素養・能力を有すると認められる者に学士（人文学）の学位を授与する。

DP 1 【知識・理解】

- 1-1) 社会人としての基礎的な学力を修得している。
- 1-2) ツーリズムの領域について幅広い理解と知識を身につけている。
- 1-3) ビジネスの領域について幅広い理解と知識を身につけている。

DP 2 【思考・判断】

- 2-1) 現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力、問題解決に必要な思考力、判断力を修得している。

DP 3 【関心・意欲】

- 3-1) 地域や諸外国の問題への関心と貢献する意欲を持っている。

DP 4 【態度】

- 4-1) 職業としての礼儀作法やマナーを身につけ、ホスピタリティの心と豊かな人間性を持っている。

DP 5 【技能・表現】

- 5-1) 情報処理の知識と技能等の専門的な実務能力を修得している。
- 5-2) ツーリズムとビジネスの領域における外国語でのコミュニケーション能力を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

人文学部観光文化学科では、教育目的に基づき、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成している。

1. 総合人間科学では、知識と教養を培い、総合的・分析的視点で問題を捉える能力を伸ばす科目を配置する。
2. ツーリズム及びビジネスの専門科目の体系的学習が可能になるように科目を配置する。
3. 学科の基盤となる最も基本的な考え方と知識を得るための基礎教養科目を「専門基礎科目」に配置する。
4. 「専門基礎科目」の理解の上に、学科の専門分野の基本をより具体的に理解できるように、「専門基幹科目」を2年次から4年次まで配置する。
5. 学科の専門分野の理解を深めることで、学びと現代社会・関係諸領域との関係を理解できるようにするため、「専門展開科目」を2年次から4年次まで配置する。
6. 高等学校での学びからの橋渡しから始めて、大学での主体的な思考力・判断力を身につけることのできる研究的態度を育てるための「演習・研究」科目を各学年に必修として配置する。
7. 中国語は、学年順に入門からガイドレベルまで配置する。
8. 英語は、1年次には基礎を必修科目で学び、習熟度に応じた選択科目を4年次まで配置する。
9. 旅行業務取扱管理者・通訳案内士等の資格試験に対応する科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

本学科では、次のような学生の入学を期待しています。

1. ツーリズムまたはその他のビジネスで活躍したい人。
2. 基礎学力とコミュニケーション力があり、向上心・向学心がある人。
3. 地域や社会に関心を持ち、貢献しようという意欲がある人。

助産別科

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

助産別科では、専門知識・技術を習得するための専門教育科目の所定の単位数を修得し、以下の要件を満たす者に修了証書を授与する。

DP 1 【知識・理解】

- 1-1) 周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。
- 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。
- 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。

DP 2 【思考・判断】

- 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。
- 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。

DP 3 【関心・意欲】

- 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。

DP4【態度】

4-1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。

DP5【技能・表現】

5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

助産別科では、教育目的に基づき、卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）を実現するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成している。

1. 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で編成する。
2. 助産の理論領域は助産実践の基になる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。
3. 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルスの考え方を核にして、女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、これらについての課題に積極的に取り組む態度を育成する。
4. 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
5. 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
6. 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

助産別科では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 生命への尊厳と他者への思いやりのある人。
2. 助産師を志す強い意志のある人。
3. 助産の基礎を学ぶための看護の基礎学力と技術がある人。
4. 責任を持って行動ができる人。